

高校国語科における、的確に話したり聞いたりできる生徒の育成

-生徒によるルーブリックの作成、活用及び修正を学習活動として-

特別研修員 国語 黒岩 芽生 (高等学校教諭)

目指す生徒像

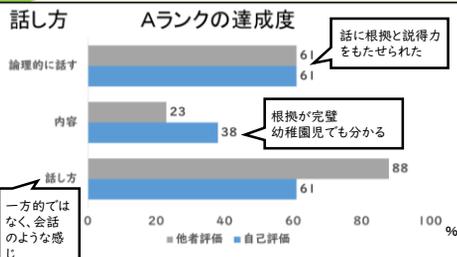
・的確に話したり聞いたりできる生徒



GOAL



④ できるようになったことを確認したり、次に設定すべき行動目標を挙げたりしながら、ルーブリックを**修正**する。



③ ビデオや自己評価を基に、自分の取組や成果を**振り返**る。



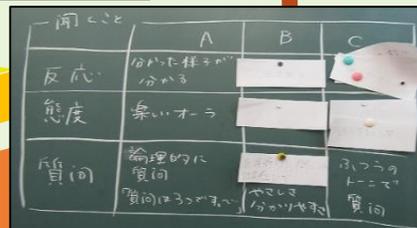
② 毎時間ルーブリックを**活用**して他者評価を行う。

単元ごとに②~④を繰り返し、ルーブリックを改良していく。

生徒の実態

・考えを言語化して伝えることに課題がある。
・的確に聞き取ることに課題がある。

START



① 生徒自ら「的確な話し方、聞き方とはどのようなものか？」を考え、ルーブリックを**作成**する。

手立て: 生徒によるルーブリックの作成、活用及び修正

話し方	初版 (5月作成) A評価	第3版 (10月作成) A評価	聞き方	初版 (5月作成) A評価	第2版 (9月作成) A評価
話す内容	関心を沸き立たせられる内容である。	誰かをからかうことなく、分かりやすく話すことができる。	反応	分かったという反応ができる。	相手の意見を否定せず、受け止める。
話し方	はっきり話す。	1対1にならず、全員と会話ができる。	態度	楽しそうなオーラが出せる。	楽しそうなオーラが出せる。
他	自信をもって話していた。	笑顔で話していた。	質問	論理的に質問ができる。	話の内容を踏まえた質問ができる。

成果

- ルーブリックの活用や修正を行うことで、「話すこと・聞くこと」における身に付けるべき技能を一人一人が意識的かつ具体的に考えるため、段階を踏みながら着実に力を付けることができた。
- 話すことや聞くことへの苦手意識を払拭し、会話を楽しむ姿勢を育むことができた。

課題

- △話す内容の改善や論理的に話す技術は、生徒のみで向上させることが難しい。
- スピーチ原稿など、話す内容に着目できるような資料を活用したり、論理的な話し方ができるよう教員から働き掛けたりすることが必要である。